

南信州広域連合第6回広域連合会議 結果報告

日時：平成28年9月16日(金)14:32～15:41

場所：長野県飯田合同庁舎 3階 講堂

1 開 会…14:32

【出席者】13市町村長（高森町長欠席）・佐藤副管理者

〔下伊那地方事務所〕山本所長・羽生環境課長・今井地域政策課長・細野地域政策課長補佐兼企画振興係長・竹村地域政策課主査

〔飯田建設事務所〕西元所長

〔飯田保健福祉事務所〕小林副所長

〔長野県〕中山環境部水大気環境課長

〔(株)中部フォレストマネジメント〕木塚代表取締役

〔飯田市〕高田産業経済部長

〔町村会〕牛久保事務局長

〔飯田広域消防〕関島消防長・三石消防次長兼飯田消防署長・有賀総務課長

〔飯田環境センター〕田見事務長・北原事務長補佐兼庶務係長兼新焼却施設整備担当専門主査

【事務局】渡邊事務局長・塚平事務局次長・北原事務局次長補佐兼庶務係長・秦野事務局次長補佐兼広域振興係長・下島介護保険係長・前沢庶務係主事

2 広域連合長挨拶

本日は午前中の視察を含めて対応していただき感謝申し上げます。視察では、リニア駅建設地の確認及び稲葉クリーンセンターの工事の進捗状況を見てまわることができた。どちらも実際に見てみることで、改めて状況確認ができたのではないかと思います。

本会議では(株)中部フォレストマネジメント及び県水道ビジョン(素案)の概要について、説明をいただけることになっている。よろしく願い申し上げます。

3 協議・報告事項

(1) 中部フォレストマネジメントについて

…資料による説明（木塚代表取締役）

森林・林業を軸とした下伊那地域の地域活性化に向けてのひとつの体制である「(仮称)下伊那森林バンク」という構想を提案させていただく。弊社の概要については資料参照。

事業コンセプトについて。わかりやすい言い方をすると、商業ビルなどの管理手法（アセットマネジメント）の森林版。実際の現場の伐採等は地域の森林組合や民間業者にお願いする。現場を含めて一番効率的な形をつくっていくために、正確な森林のデータベースをつくり、生産流通管理として最終需要に向けたマーケットイン型の実をつくっていくもの。もう一方で、林業のライフサイクルは長く、今現在は戦後の拡大造林で植えた木がそれなりの資源になっているが、「木材を提供すること以外に林業に付随する価値は他にないのだろうか」ということが発想の原点。木材供給だけではなく、同時に森林を整備して経済的価値を生む事業（例：インバウンドを中心とした里山ツーリズム・伐採した土地を活用した牧場・小水力やバイオマス）を進めていきたい。

林業は現実的に厳しい状況にあるが、地方創生・FIT制度・ESG投資（環境・社会等に配慮している企業を重視して行う投資）など、社会的な背景は変わってきている。そういった中で、木材を生産するだけではなく、いろいろな可能性が出てきているのではないかと考える。この地域の現状は、約64百万立方メートルの元本があり、年間推定成長量が約64万立方メートルあるが、現状はそのうち約3

万立方メートルしか利用できていない。持続可能な林業を進めるにあたって、成長量分を考えるだけでも経済効果が生まれると思われる。一方で、今まで住宅だけに使われていたものがCLT工法により中層ビルにも使用可能になり、木材需要は高まっている。地方創生の議論の中で、ひとつは今ある資源（地域の90%を占める森林）を活用することをぜひ提案したい。

問題を解決するには従来とは違う視点から林業を考えていく必要がある。「林業のスマート化」…地面を歩いて調査するだけでなく、ドローン等の先端技術を使用したデータにより、中長期のグランドデザインをつくり、その上で単年度毎の生産計画をつくる。あわせて生産管理・在庫管理・流通管理を実施する。事務管理については分業化及び効率化を図る。他には「3次産業化」・「資源を活用した新ビジネスの開発」がある。飯伊森林組合・金融機関・行政が一体となり、そこに弊社のような機能を取り入れた新しい組織体をぜひ検討していただきたい。

【質疑なし】

(2) 長野県環境部水大気環境課から「長野県水道ビジョン(素案)の概要について」

…資料2による説明（中山環境部水大気環境課長）

長野県では安心・安全な水道事業を将来にわたって実施していくために、県内の水道事業者等の取組の指針となる「長野県水道ビジョン」の策定を昨年度から進めている。現在は素案段階であるが、7月26日に水道担当課長等に集まっていただき、意見等をいただいた。

国の動向について。厚労省においては安全・強靱・持続の3つの観点から将来を含めた新水道ビジョンを策定し、水道事業者自身が作成する水道事業ビジョン、あるいは広域的な視点から都道府県が作成する県水道ビジョンについて推奨している。また水道事業基盤強化方策の検討においては、広域連携の推進が提案されている。加えて2月には総務省から、水道の広域連携に関する検討体制の構築についての通知が発せられた。

県内の水道事業の現状と課題について。水道普及率98.9%で、水道事業者数は特に小規模な水道事業者が多い。給水人口は平成15年を境に減少しており、給水収益も減少している。一方、水道施設の建設改良費は、今後管路等について法定耐用年数毎に更新を行っていくことを考えると、平成50年頃には更新のピークを迎える。また職員数の削減等により経験豊富な職員が減少し、水道を取り巻く環境は年々厳しくなっている。将来にわたり、持続可能な水道水の供給体制を確保していくためには、将来を見据えた運営基盤の強化に取り組むことが必要となるが、小規模な事業者においては経営的・人力的な面から検討自体が困難ということもあり、また広域連携についても検討する場がないなど、なかなか議論が深まっていない状況である。このため、県としては水道事業者に対して将来を見据えた取組の検討を促すとともに、広域連携の調整を図ることが必要と考え、今般「長野県水道ビジョン」を策定するというに至った。

策定の趣旨等について。目標年度としては平成38年度までの10年間。「人口減少社会の中で安心・安全な水道水を届ける」を基本理念とする。基本方針は〔持続〕〔強靱〕〔安全〕の3つを設定。

取組の内容について。個々の水道事業者がそれぞれ取組を進めるとともに、単独では困難な取組やより効果的な課題については広域連携を推進する。

個々の水道事業者の方策・取組内容について。〔持続〕：計画的かつ合理的な施設更新と再配置…アセットマネジメントの実践による健全な施設の維持を行う。目標をアセットマネジメント実施率100%に設定。〔強靱〕：災害に強い水道施設の構築…基幹管路や避難所等の重要施設の耐震化を進めるなど、優先順位をつけた水道施設の耐震化を推進する。目標として、県全体の基幹管路の耐震化率を設定したい。

広域連携の推進について。広域連携により、経営の効率化・不足する技術力の補完及び蓄積・経営の安定化が期待される。広域連携を進めるにあたっての基本的な考え方は「給水区域が近接している平地部等においては広域的な水道事業者への集約を目指す」・「山間部に給水区域が点在している簡易水道事業者等に対する支援体制を構築する」。連携の進め方は、まずは近隣の水道事業者との間で連携の検討を開始することから始め、地域の実情・水道事業者のニーズに応じた多様な連携形態を採用しながら段階的に連携を拡大していくことが基礎となる。できることから始めて連携を深めていく。地形等の制約により集約に参加が困難な簡易水道事業者等については、技術的な支援策を構築する。例

として広域連合・土木振興会に技術職員を配置して技術的業務の共同化を図ったり、大規模事業者等による事務の代替執行・管理業務の受託・技術者バンク創設による人材確保等が考えられる。検討体制については、県・市町村・公営水道事業者等を構成とする検討の場を圏域毎に設置し、広域連携について検討を進めてまいりたい。

推進体制については資料参照。中間年度（平成33年度）には必要に応じた見直しを行いたい。

この水道ビジョンについては、今後さらに検討委員会で議論を重ね、パブリックコメントを行い、今年度末の策定を目指す。南信州広域連合においても、水道事業の広域連携について検討を始めていと伺っている。先の地域検討会議には広域連合事務局長に出席をいただいた。将来の安心・安全な水道を確保していくために、水道事業の広域連携について広域連合に取り組んでいただきながら、一緒に検討を進めてまいりたい。

【質疑】（柳島大鹿村長）

水道事業者の割合について。「簡易水道：241事業」とのことだが、これは組合で運営している事業が数多くあるという解釈でよいか。

【応答】（中山環境部水大気環境課長）

かなり多いのは住民組合の方の簡易水道事業。

【質疑】（柳島大鹿村長）

簡易水道の統合をできるだけ図っていかないと将来的には補助金等もつかなくなるという指導を受けて、相当多額なものをかけて認可を取り直さなければならないということを担当が言っているが、それは事実なのか。

【応答】（中山環境部水大気環境課長）

国の方では「簡易水道の統合計画を定めて、今年度までの計画で事業を進めなさい」というもの。その統合計画については、なかなか厳しいものになると思われる。ただ、住民組合の事業については市町村・公営企業の運営と異なるので、もともと補助金対象から外れている。

【補足】（渡邊事務局長）

広域連合も県と一緒に何回か担当課長等に集まっていた。ソフト・ハードの両面あるが、ハード面については現地調査をしないと具体的な統合の画を描けない状況にあるため、若干手間がかかると思われる。当面、何らかの形でどなたから着手していくかということについて、少し方向等を示していきたいと考えている。

(3) 知の拠点整備事業の状況報告について

…資料8による説明（佐藤副管理者）

長野県との契約の状況について。本日付で建物の無償譲渡及び使用貸借、土地の使用貸借に関する契約が締結された。使用貸借は本日から年度末まで（以降1年毎の更新）。

資料2ページは、昨日県で発表された「航空機産業の振興について」。その中の南信州広域連合と連携した拠点の整備について、「旧飯田工業高校の建物の一部を南信州広域連合に無償譲渡し、南信州広域連合と連携して拠点を整備」ということで県から発表があった。今回の補正予算の内容には試験設備を買うという予算は入っていないが、補正予算事業に記載のある「航空機システム環境試験設備整備を検討中」というものが将来の知の拠点整備の検討にあたる。推進体制の立ち上げについては、航空機産業振興ビジョンに基づいて経産省・広域連合・県経営者協会といったメンバーが入る予定。そこで推進会議を設置し、旧飯田工業高校をひとつの拠点として県全体の航空機産業をどう振興していくかを検討する会議体が設立される予定。

実施設計について。進捗状況は、第1期工事分は概ね完了しており、本日付で建築確認申請を出している。現在第2期工事を作業中。

飯田市が南信州広域連合から事務委託を受けて工事を進めることになっており、今後入札公告を経て10月中には入札し業者を決定する。地元への説明を継続して実施しながら工事を進めていく。

工事の概要・スケジュールについて。第1期工事の工期は契約日から平成29年3月29日まで。第1期工事の概要は資料3ページに記載。それぞれの箇所をどのような工事をするか整理した。全体としてトイレの改修・照明器具のLED化・エアコンの設置・エレベーターの設置等を実施。電気科混合

棟については2階の信大航空機システム共同研究講座として使う部分を中心に、電気科混合棟全体を使える状態にする工事を進める。機械科棟は、校舎全体を管理するための整備を進める。体育館棟の一部に、今年度交付金で購入する着氷試験機を入れるための部屋を整備する。以上の工事が年度末までに行われる。工事費は加速化交付金の2億9千8百万円を充てる。

以上の内容で手続を粛々と進めていることについて承知願いたい。

【質疑】(深津松川町長)

使用貸借契約が1年毎の更新ということだが、複数年契約ではない意味合いはあるか。

【応答】(佐藤副管理者)

使い方が決まっていない部分が使用貸借になっており、今後その部分が譲渡に変わる等の環境変化が予定されているため、それを確認しながら毎年進めていくという考え。例えば産業センターが移転を予定している特別教室棟については今年度まだ譲渡になっていないが、今後県との間で譲渡されるということになれば、現在使用貸借契約しているところが譲渡ということになる。将来的に国やJAXA等の試験機関が入ってくるという希望を持っている管理棟についても同様。よって、今後の変化に対応するための単年度契約である。

(4) 伊那谷自治体会議について

…資料3による説明(渡邊事務局長)

去る9月2日に伊那谷自治体会議が県飯田合同庁舎にて県庁知事室とのウェブ会議形式で開催された。会議内容については資料3-1参照。

資料3-2は飯田市がリニア駅周辺関係について整理したものを説明した際の資料。飯田線の新駅の考え方等についても飯田市から説明をいただいた。

資料3-3はプロジェクト展開のたたき台。これらについてはいろいろと意見も出ているため、また幹事会等で協議しながら具体的に進めていく。

この伊那谷自治体会議でのいろいろな議論を受けて、私たちの地域でもいろいろな施設等の関係について今まで整理してきた経過があるが、そうした活動についても具体的に本格化させていかなければならないということで、その点についても改めて説明・提案をさせていただきたい。

【質疑なし】

(5) 長野県南部国道連絡会等について

…資料4による説明(秦野事務局次長補佐兼広域振興係長)

長野県南部国道連絡会の意見交換会・提言活動及び中部国道協会の提言活動について。

南部国道連絡会活動に係る国会議員との意見交換会において、今年度の当圏域での発表者を決定していただくための提案。先の部会にて、今年度は土木振興会長(平谷村長)にお願いしたい。また、中部国道協会の活動について、促進大会の後に提言活動があるが、南信州広域連合としては長野県選出の国会議員を木曾広域連合と担当することになっている。担当者については木曾広域連合を含めて調整させていただく。

【質疑なし】

(6) 南信州移住促進事業について

…資料5による説明(秦野事務局次長補佐兼広域振興係長)

現在下伊那地方事務所と共同で実施を予定している、広域的な移住促進事業の元気づくり支援金への申請について。

事業の説明として、地域発 元気づくり支援金の第三次募集に南信州移住促進事業の申請を行いたいとするもの。各市町村が独自で取り組む移住促進施策に加え、広域的な連携の元に移住促進施策に取り組むことにより、UI ターン希望者へ多様な選択肢を提供する機会を創出してまいりたい。今年度は試行期間として実施させていただき、来年度からの本格実施に向けて、広域的な移住促進のパイロット事業として実施させていただきたい。内容については、田舎暮らし『楽園信州』推進協議会主催事

業及びいいとこなんだに南信州 in 銀座にて、移住促進の相談会を実施予定。事業の詳細については、下伊那地方事務所及び市町村担当者と共同で進めていきたい。

【補足】（山本下伊那地方事務所長）

移住・定住促進については、5月の移動知事室の際、知事との意見交換の場でも議論していただいた内容。そこでの議論をふまえ、地方事務所から声を掛けさせていただき、7月に管内市町村・広域連合・県担当者による会議を開催し、個々の取組について情報共有していただき、広域的な移住・定住促進施策について意見交換を行った。その会議においては「個別の市町村での対応は、知名度等の点で限界がある」といった意見があり、「南信州地域として連携した事業の推進が必要」といった認識を共有した。県としても現在14市町村にアンケートを行っており、その結果をふまえ、県として今後について検討し、皆様と連携して広域的な移住・定住施策を推進していきたいと考えている。

(7) 飯田広域消防から

①出動状況について

②熱中症疑いの救急搬送について

…資料6による説明（三石消防次長兼飯田消防署長）

①出動状況について

昨年同日と比較した9月11日現在の市町村別火災発生状況について。今年の総合計67件は昨年と比較して5件の増加。

平成28年9月11日の火災・救急・救助の出動件数について。昨年同日と比較して、火災は5件の増加、救急は152件の増加、救助は14件の減少。

②熱中症疑いの救急搬送について

4月25日から9月12日までの状況について。救急搬送人員は68名で、昨年同日と比較して11名の減少。市町村別搬送人員の「9月：合計11名」は、昨年同日を大きく上回る結果となった。本調査終了日は10月2日(日)。

【質疑なし】

(8) 後援依頼について

…資料7による説明（北原事務局次長補佐兼庶務係長）

【報告】

資料7-1…「人材ふれあいフェア」（公益財団法人上伊那産業振興会）の後援依頼。平成28年11月12日(土)開催。内容については資料参照。チラシの関係上、上伊那産業振興会から「早急な回答」との要望を受け、起案にて連合長決裁をいただき、後援承諾とさせていただいた。

資料7-6…「第1回みなみ信州駅伝・ロードレース大会」（公益財団法人飯田市体育協会）の後援依頼。平成28年12月4日(日)開催。チラシ・ポスターの関係上、飯田市体育協会から「早急な回答を」との要望を受け、起案にて連合長決裁をいただき、後援承諾とさせていただいた。

【協議】

資料7-2…「歯と口の健康を守る郡市民大会」（飯田下伊那歯科医師会・飯伊地区包括医療協議会）の後援依頼。平成28年10月22日(土)開催。内容は昨年同様（名義使用）。

資料7-3…「第2回三遠南信 食の祭典」（愛知県北設楽郡豊根村長）の後援依頼。平成28年10月30日(日)茶臼山高原にて開催。昨年も後援依頼があり、承諾している。

資料7-4…「下伊那道路講演会」（下伊那土木振興会）の後援依頼。平成28年11月7日(月)開催。内容は資料参照。

資料7-5…「飯田自然エネルギー大学特別企画 藻谷浩介氏講演会」（NPO法人南信州おひさま進歩・おひさま進歩エネルギー株式会社）の後援依頼。平成28年10月23日(日)飯田市鼎公民館にて開催。詳細は資料参照。昨年も後援依頼があり、承諾している。

資料7-7…「第34回伊那人形芝居公演」（伊那人形芝居保存協議会）の後援依頼。平成28年11月6日(日)黒田人形浄瑠璃伝承館にて開催。今年度初めての後援依頼。

以上5件について、後援承諾の協議をお願いしたい。

【質疑なし、後援承諾】

(9) 南信州ふれあい列車について

…資料9による説明（秦野事務局次長補佐兼広域振興係長）

JR 飯田線活性化期成同盟会が主催する「南信州ふれあい列車」についての案内及び協力依頼。今年も峰竜太氏に乗車していただき、10月22日(土)に催行する。今年は豊橋駅から為栗駅までの秘境駅ツアー。現在同盟会から各市町村宛に、豊橋駅から為栗駅までの中での市町村プレゼンテーションの案内を通知して協力をお願いしている。「豊橋からの誘客」という形で取り組んでいる旨、関係各位に周知願いたい。

【質疑】（松島副連合長）

帰りは温田駅から乗車するようになっているが、行きの為栗駅下車から帰りの温田駅乗車まではどのような動きなのか。

【応答】（秦野事務局次長補佐兼広域振興係長）

新野千石平や農村文化伝承センター等をまわった後、バスで温田駅へ移動する。

4 長野県

●下伊那地方事務所

…口頭による説明（山本所長）

県の現地機関の見直しについて。昨日の部局長会議で実施案を決定し、パブリックコメントを実施している。先程の町村会において、実施案について説明させていただいた。牧野飯田市長には先日総務省から説明させていただき、市長会においても説明させていただいた。県の実施案について意見等があれば、県または下伊那地方事務所へお寄せいただきたい。

●飯田建設事務所

…資料による説明（西元所長）

「信州ふるさとの道 ふれあい事業(アダプトシステム)」について。アダプト活動・協定内容は資料参照。実施状況については、9月6日に1団体加わって飯田管内では65団体、全体で110kmの活動をいただいている。平成19年～28年において、全県に占める割合が2割に近い活動をいただいている。先程の移住・定住促進事業のタイトル「いいとこなんだに、おいなんよ、南信州」という意味も含めて、社会貢献活動に対して理解の深い土地柄なのではないかと思う。県道飯田富山佐久間線 飯田市下久堅のアダプト活動においては、南原高齢者クラブの皆様が平成28年度の功労賞として県期成同盟会から表彰された。それぞれの団体から苦勞の声も伺っているが、こうした活動は我々としてもありがたいことであるし、引き続き皆様に協力していただきたい。また建設事務所としても、機会をとらえて広報していきたい。

本日プレスリリースした件について。国道418号の飯田市南信濃飯島拡幅（延長約500m）の開通を9月21日(水)午後3時に予定している。秋の行楽シーズン等に向けて、皆様にとって安心・安全な道路網のひとつになると良い。

南部国道について。建設事務所長としても、当管内の151号・152号・153号・256号・418号・474号（三遠南信自動車道一般国道）の道路整備について、こういった活動をしていただくことは本当にありがたい。この体制支援等に対してのお願いをいただければと思う。

●飯田保健福祉事務所…なし

5 その他

【松島副連合長】

下伊那地方事務所長に2点お願いがある。

①今回私が飯伊連合猟友会長になり、先日市町村の担当者会議と猟友会長の会議があった。そこで松川町の猟友会長から「熊の捕獲許可申請を出しても、なかなか県から許可が下りない」という話があった。こちらの実情を聞いていただいて、できるだけ許可していただきたい。

②熊を錯誤捕獲した時に麻醉銃を撃って放すが、地元で麻醉銃を撃てる人がいなくなってしまった。現在は他地域（松本）の人をお願いしているため、当地域に到着するまで長時間を要する状況。県林務課職員にも頼んでいるが、麻醉銃を撃てる人材を地元で育成することを県も一緒になって考えていただき、せめて1時間以内には対応できる環境を整えていただきたい。

【山本下伊那地方事務所長】

①熊の捕獲許可に関しては、実情を本庁に繋いで少しでも希望に添えるように話をしていきたい。ただ、捕獲件数の関係でなかなか許可を出せないという実態があるように聞いている。

②麻醉銃の件についても、林務課と相談していきたい。

6 今後の日程

10月25日（火） 南信州広域連合会議（売木村）

7 閉会…15:41